

成果の説明書

(氏名) 名和賢美	(学部) 経済学部
1 重要事項	
<p>2018年度に最も力を注いだのは、前年度に引き続き、「論理的表現力と批判的思考力を主軸とした市民教育プログラム構築に向けた調査研究」であり、関連する教育研究の成果および事業の概要は、以下の通りである。</p>	
(1) 初等中等教育での教育研究	
① 高崎市立高崎経済大学附属高等学校1年生への作文指導 (9月20日)	
今年で7回目。附属高体育館にて「苦手な作文の攻略法：読みやすい文章の書き方」という講義を1年生に実施。事前課題と事後課題も課し、論理的表現の基礎に関する理解促進および能力向上を図った。附属高のスーパー・グローバル・ハイスクール事業（最終年度）の一環。	
② 高崎市立高崎経済大学附属高等学校1年生オナークラスへの「経大生による作文指導講座」の開催 (10月11日、11月15日、12月13日)	
ゼミ生が附属高1年オナークラス生徒に少人数制で型作文を指導するという企画であり、今年で8回目の実施。3日間にわたる大学生21名のきめ細やかな指導により、生徒75名の論理的表現力を大幅に高める一助となる。附属高のスーパー・グローバル・ハイスクール事業の一環。	
(2) 高等教育での教育研究	
① 経済学部教養教育委員会日本語部会の部会長 (通年)	
経済学部では2014年度より1年次生の批判的思考・論理的表現の汎用力の育成を目指す初年次教育科目として日本語リテラシー科目を新設開講したが、本科目の授業内容の検討や担当者の選定などを逐条審議する部会を定期的に主宰した。さらに、次年度に向けて『指導要領2019年版』(99頁)を作成した。	
② 平成30年度高崎経済大学研究奨励費「日本語リテラシー科目5年間の歩みを振り返る」の研究代表者 (7月～3月末)	
上述した日本語リテラシー科目のさらなる充実を目指し、本科目開講5年間を振り返りながら、現状における成果および今後の課題について検討することを主目的とした共同研究である。その成果については、研究代表者として、以下の2点を編集した。	
『「日本語リテラシーI」指導要領2018年度版』(2019年3月)	
『日本語リテラシーと高等教育』(2019年3月)	
なお、後者では以下の論文2編を執筆した。	
『「日本語リテラシーI」築5年の現状』5-35頁。	
『「日本語リテラシーI」は授業設計者の手から離れたか』37-65頁。	
(3) 社会人向けの教育研究	
① 藤岡青年経営者協議会研修会での講演 (8月28日)	
「古代ローマ人から学ぶ発信力の鍛え方」という演題で藤岡市総合学習センターにて講演。古代ローマにおける弁論術の理論を参照しながら、文章表現力とプレゼンテーションとの密接な関係について説明した上で、発信力を底上げするための重要ポイントを解説した。	

2 その他の事項

(1) 政治思想学会誌『政治思想研究』公募論文の査読1編(9月上旬～10月上旬)

3 次年度以降の計画・抱負

前年度と同一テーマが、最重要課題となる。具体的には、以下の通りである。

まず、初等中等教育での教育研究では、附属高のスーパー・グローバル・ハイスクール事業が終了したため、大学と高校、さらに小学校との新たな連携事業の企画・実施を試みる。それから、高等教育での教育研究では、部会長を継続し6年目を迎える日本語リテラシー科目の充実に努める。さらに、社会人向けの教育研究についても機会を増やしていきたい。